

- トヨタ自動車、レクサス「LS500」のエンジン制御用コンピュータ(ECU)に不具合があるとしてリコール 17年10月11日～18年9月14日に生産した4770台  
ECUの制御プログラムが不適切な為、アイドリングストップ直後の再始動時にエンジンの吸入空気量を正確に算出できないことがある。その為、エンジン回転が不安定となり、最悪の場合、エンストする恐れがある。
- 日野自動車、「レンジャー」「ブルーリボン・ハイブリッド」の自動変速機に不具合があるとしてリコール 08年10月27日～17年9月1日に生産した3115台  
機械式自動変速機において、2個仕様の自動クラッチ作動用モータの制御プログラムが不適切な為、片側モータ失陥時に残りのモータでクラッチが作動できないことがある。その為、警告灯が点灯するとともに走行不能となる恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」の機械式自動変速機の制御プログラム及び変速用モータ、車速センサに不具合があるとしてリコール  
10年6月21日～17年7月13日に生産した2万3980台  
機械式自動変速機において、2個仕様の自動クラッチ作動用モータの制御プログラムが不適切な為、片側モータ失陥時に残りのモータでクラッチが作動できないことがある。その為、警告灯が点灯するとともに走行不能となる恐れがある。変速用モータについては、強度検討が不足していた為、変速終了時に巻線かしめ部に過大な引っ張り力が加わり、変速が繰り返し行われると巻線が断線することがある。その為、警告灯が点灯するとともに変速できなくなり、走行不能となる恐れがある。車速センサについては、内部の熱膨張に対する検討が不足していた為、高温時に構成部品どうしが干渉することで素子ハンダ部に過大な力が加わることがある。その為、素子ハンダ部に亀裂が生じ、素子ハンダ部が導通不良となり、警告灯が点灯するとともに自動変速不良や速度計の指示不良となる恐れがある。
- 日産自動車、11車種の追浜工場(神奈川県横須賀市)などの完成検査で合否判定が不明確な可能性があったとしてリコール  
17年11月7日～18年10月25日に生産した14万8780台  
11車種＝ノート・リーフ・ジューク・シルフィア・キューブ・マーチ・アトラス・シベリアン、いすゞOEM エルフ・ジャーニー、三菱ふそうOEM「キャンター・ガッツ」  
日産は昨年10月以降、完成検査の不正対応で合計42車種114万3540台のリコールを実施するとともに、法規・法令順守のための全社的活動を開始した。再発防止策をより確実に徹底する中で、プロセスのさらなる詳細な定義、検査員の確実な理解などの点検を実施。その自主点検の中で、追浜工場およびオートワークス京都の生産車両の一部車両に対し、合否判定が不明確な可能性のある検査を行っていたことが判明した。具体的には、後輪ブレーキ制動力の検査で駐車ブレーキレバーを使用したり、ステアリングの切れ角検査で社内基準内に収めるために最後にステアリングを戻して測定したなどの行為が
- 日野自動車、「プロフィア」の吸気バルブに不具合があるとしてリコール 05年12月12日～17年3月28日に生産した9万3986台  
E13C型エンジンにて、吸気バルブ用ロッカー部の寸法が不適切な為、バルブが傾いた状態となりバルブガイド部が偏摩耗することがある。その為、異常な打音や振動が発生し、そのまま使用を続けると、エンジンが停止する恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「E220d」等ディーゼルモデル計3車種の燃料ホースに不具合があるとしてリコール  
16年7月9日～17年10月26日に輸入した3687台  
燃料ホースの組み付け指示が不適切な為、他の部品と干渉するものがある。その為、走行振動等により燃料ホースの表皮が摩耗して穴が開き、燃料漏れが発生。最悪の場合、燃料供給が不足し走行中にエンジンストールする恐れがある。
- BMWジャパン・ニッポンレーシングジャパン、「320i」等計30車種のエアコンに接続するワイヤーハーネスに不具合があるとしてリコール  
04年11月24日～11年12月1日に輸入した10万0768台  
エアコンのプロワーファンレギュレーターへ電力を供給するワイヤーハーネス端子のメッキ素材が不適切な為、車両振動によってメッキが損傷し、摩擦腐食が発生することがある。その為、電気抵抗が高くなりワイヤーハーネス端子が発熱し損傷して、最悪の場合、火災に至る恐れがある。

ב

ב